山口大学医学部附属病院から笑顔と情報を発信するコミュニケーションマガジン

山大病院だより

2015 3月号 vol.221

特集1 あいさつ運動を実施しています

あいさつ運動に取り組んでいる看護部副看護師長会　顧客サービスグループ

特集2 「C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変患者に対する自己骨髄細胞投与療法の有効性と安全性に関する研究」について

特集1

あいさつ運動を実施しています

おはようございます！こんにちは！

副看護師長会
顧客サービスグループ
の活動紹介

今年度、看護部副看護師長会の顧客サービスグループは、あいさつ運動に重点をおいて活動しています。「挨拶」の語源は仏教に由来しており、「できるだけ近づいて相手の中からいのちと教えと人間性を引き出す」を意味するそうです。接遇の基本ともいえるあいさつを啓発するために、私たち顧客サービスグループは標語募集、ポスター作製、病棟ラウンドなどを行っています。

標語は看護部の各部署から、「みんなが、誰にでも気持ちの良いあいさつをしたくなるような標語」というテーマで募集しました。応募するにあたり、各部署であいさつについて話し合う機会を持ち、一生懸命考えました。看護部全部署からの応募作を使って、あいさつ運動のポスターを作製し、週替わりで看護部前の廊下に掲示しています。

病棟ラウンドは、各部署でどのようにあいさつ運動に取り組んでいるか、現状を知るため行っています。ラウンド中、ナースセンターに入る時は、私たちグループのメンバーが率先して気持ちの良いあいさつをするよう心がけています。また、出会ったスタッフや患者さんにも、私たちから明るく元気に声かけをしています。時々戸惑われることもありますが、ほとんどの方が気持ちよく応えてくださるのでとてもうれしく思います。

病院を訪れた患者さんやご家族、業者の方へ心を込めてあいさつすることで温かい病院になることを、そして同じ病院で働くスタッフ同士が、気持ちの良いあいさつを交わすことで、より充実したチーム医療の提供へつながることを願っています。

各部署でのあいさつ運動の取り組みを把握するために、病棟ラウンドを行っています。

各部署が作成したあいさつの標語の一部を紹介します

あいさつは　心を満たす　栄養剤
1病棟10階西

おはようと　笑顔で広がる　看護の輪
1病棟9階西

あかるいね　いつも　さわやか
つられてえがお
1病棟8階東

咲かせよう　あいさつの花　病棟に
1病棟7階東

ありのままの～　あいさつ見せるのよ～
（アナと雪の女王より）
1病棟6階東

笑顔で　おはよう
笑顔で　お疲れ　また明日
1病棟5階西

人と人　つなぐあいさつ　心の輪
1病棟4階東

あいさつは　心を癒す　魔法のことば
1病棟3階東

こんにちは　今日も明るく　元気よく
2病棟2．3階

あたたかい心で　いつも笑顔で
さわやかに　つづけようあいさつ運動
2病棟4階

あいさつは　笑顔引き出す　第一歩
手術部

職場に広げよう　オアシスを！
（おはようありがとう失礼しますすみません）
感染制御室

作製したポスターは、週替わりで看護部前の廊下に掲示しています。

「C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変患者に対する自己骨髄細胞投与療法の有効性と安全性に関する研究」について

第1内科 助教 岩本 拓也

【研究の概要】

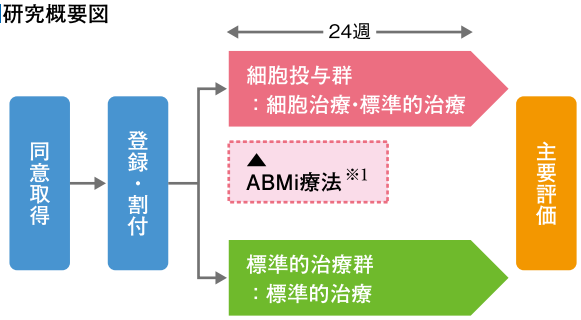
「C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変患者に対する自己骨髄細胞投与療法の有効性と安全性に関する研究」が先進医療Bとして厚生労働省の許可を受け、2014年12月に先進医療Bとしては1例目の自己骨髄細胞投与を行いました。

この研究は、世界に先駆けて山口大学医学部附属病院において2003年から自己骨髄細胞投与療法の臨床研究を開始し、重篤な有害事象の発生はなくC型肝炎ウイルスに起因する肝硬変を含む肝硬変症例の肝機能が改善したことを示してきました。今回は、過去に実施した臨床研究の実績をふまえ、C型肝炎ウイルスに起因した肝硬変症の患者さんを対象として、より科学的に有効性と安全性を検討するためにランダム化比較試験（※2）を計画し、先進医療Bとして実施します。

適格基準は以下の通りです。

❶C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変症例
❷90日以上離れた2点において、Child-Pugh Scoreが7点（Child-Pugh B）以上の状態にあり、現行の内科的な治療法では改善が見込めない症例
❸20歳以上75歳以下の症例
❹インフォームドコンセントを取得可能で、研究参加の同意が得られた症例
その他の除外基準に該当しなければこの治療にエントリーできる。

■研究概要図



※1 ABMi : autologous bone marrow cell infusion therapy（自己骨髄細胞投与）
※2 本臨床研究はランダム化比較試験ですので、登録された方をコンピューターにより無作為に「細胞投与群」と「標準的治療群」に振り分けます。どちらの群になるかは1対1の確率で、ご希望に添えない場合があります。

細胞投与群のスケジュール

投与当日

朝 手術室へ入室 全身麻酔により両腰から約400mlの骨髄液を採取
▼
1時間半程度で病室へ
▼
採取された骨髄液をcell processing roomで投与可能な状態へ調整
▼
15時頃 末梢静脈から1～2時間かけて細胞を点滴投与

投与後

約2週間で退院 半年間にわたって定期的に検査

この治療法に関しては今までに重篤な合併症の出現は認めておらず、合併症としては術後数日間の微熱と、骨髄採取部の疼痛を認める程度であり、安全に施行可能な治療と考えています。今回は先進医療Bとしては1例目でしたが、大きな合併症の出現はなく、無事に終えることができました。C型肝炎の治療は日進月歩であるのに対して、肝硬変に至ってしまった患者さんに対する治療法は肝移植以外には進んでおらず、ドナーの問題などからなかなか肝移植まで受けられる患者さんは少ないのが現状です。こういった患者さんの肝機能を少しでも改善したいというのがこの研究のコンセプトです。今後この治療が日本全国で受けられるよう広めていくためにも、安全性に十分な注意をはらい臨床研究を進めていきたいと考えています。

上記臨床研究は、一定の条件を満たした場合に限り参加することが可能です。参加をご希望される方は、主治医（かかりつけ医）とご相談いただきますようお願いします。また、本臨床研究に関して、電話やメール等による個別の対応は行うことはできませんので、ご寛恕くださいますようお願いいたします。
※本臨床研究参加の詳細については、病院HPからご確認ください。
http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp

退任のご挨拶

医学系研究科 保健学系学域
基礎検査学分野 教授
石川 敏三

3月31日付で山口大学医学部を定年退職するにあたり、皆様には、40年を超える長い間、温かいご指導・ご支援を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

昭和49年に麻酔科に入局し（医学部助手）、主に麻酔薬の中枢性作用や周術期における安全な麻酔法、および、神経麻酔に関する研究に従事し、多くのことを学びました。平成元年に、恩師の指導で学位（医学博士）を取得し、また海外留学（Leeds大学:S.52.9.-54.3.,California大学San Diego校:H.6.9.-12.）の機会もいただきました。このような恩師との出会いはその後のキャリアに決定的なものとなりました。また、麻酔科時代には、神経研究では臨床講座と良く交流し、手術場や病棟勤務の看護師の方々とも、看護研究や統計処理に関し、互いに切磋琢磨した思い出が数多くよみがえります。

その後、平成11年に医療短期大学部に異動（H.13.4.基礎検査学分野教授）し、主に臨床検査技師の育成に専念いたしました。当時、医学部保健学科、そして大学院保健学専攻の設置へと、大幅な組織改組の時代に遭遇し、また平成16年には独法化へと、凄まじい移行期でした。その中で、組織的にも個人的にも大きな変革と自立が求められました。委員会では、教育課程と入試制度のほか、キャリアデザインにおいても、着実な改革に委員会や検査教員と微力ながら関わってきました。最も印象に残っているひとつはキャリアデザイン委員会での取り組みでした。当時は、大変な就職難の時代で、先行大学へノウハウの研修に行ったり西日本の医療施設を訪問して交流したほか、臨床検査技師の役割や求められている教育なども学びました。委員会でも進路支援のシステム化を図るとともに、意欲的な学生達を巻き込み、ガイドブック、特製履歴書の作成や学外ネットワークを構築しました。次第に、就職内定率と国家試験合格率が、ほぼ100%となり進路支援システムの基盤ができました。また、平成16年に大学院保健学専攻が設置され、高い志を持った病院勤務者（企業も一部）も多く入学し、現場に必要な高度専門知識の教授や国際的視野での研究をテーマに互いに切磋琢磨しました。このように医学部在任中には、多くの素晴らしい指導者やおおらかで明るい同僚・学生に出会えたことはかけがえのない財産です。

附属病院は現在、新しい建物の整備が進んでおり、特定機能病院としてさらに大きく発展するものと確信しております。附属病院の皆様には長い間お世話になりました。そのご厚誼に心より感謝申し上げるとともに、皆様のご健康とご活躍を心より祈念しております。

平成26年度 定年退職者の皆さま　本当にありがとうございました。

退任のご挨拶

医学系研究科 保健学系学域
基礎看護学分野 教授
正村 啓子

本年の3月をもって定年退職いたします。

私は、昭和47年に熊本大学教育学部特別教科（看護）教員養成課程を卒業し、昭和56年熊本大学医学部附属病院看護部から熊本大学医療技術短期大学部助手に転任し、平成6年から佐賀医科大学医学部看護学科助教授としてその開設に携りました。平成13年山口大学医学部保健学科の開設時から基礎看護学分野教授として14年間、山口大学の「発見し、はぐくみ、かたちにする」という素晴らしい理念、そして、保健学科の教育理念・教育目標のもと、「未来を切り開く素晴らしい看護を提供できる看護師」を育成することを目指して、その歴史を最初に刻みこむことの重みと責任を感じながら、全力で邁進してまいりました。

私自身の長年継続してきた「卓越した看護実践に関する研究」を大きく前進させました。「人間相互理解モデル」や「卓越した看護実践への道のモデル（PENPモデル）」を考案して、ケアを提供している時の人間相互関係のプロセスを視覚化して分析した結果、「"倫理"すなわち、日常のかかわりにおいてその人を大切にすること」は、卓越した看護実践の重要な基盤であることが明らかになりました。そこで、「その人を大切にケアするとはどういうことか」について、事例を用いてPENPモデルにより理解しやすく図示し、「看護学概論I」や共通教育科目の「社会と医療」、博士前期課程の「医療倫理学特論」、病院内研修等においてヒューマンケアの基盤として教授してきました。学生たちは、「看護師がどのように人を大切にかかわるのかがよくわかった」「このフローチャート（モデル）は、とてもわかりやすい。人の心の動きや、人を理解しているか、どう思っているかがとてもよくわかる」「共感という言葉を今まで気軽に使ってきたが、こんなに深い意味があったのだ」「これは、看護の世界でだけでなく、日頃の生活から意識しなければならない」「看護以外のすべての職業にも共通することだ」「一人の人を大切にすることで、自分という存在も大きく成長していくのだ」「この考え方は人生を通して忘れずにおきたい」などと述べ、また、自分の実践を振り返り自ら解決法を導き出しており、学生たちの素晴らしい反響に感激しました。

この14年間、山口大学医学部附属病院の皆様方には、沢山のご協力・ご教示をいただきました。皆様の心温かいご支援に深く深く感謝申し上げます。山口大学医学部附属病院の益々のご発展と、皆様のご健康・ご活躍を祈念致します。

平成26年度
定年退職

医学系研究科 システム統御医学系学域
環境保健医学分野 教授
原田 規章

最終回

地域医療だより

医学教育と地域医療

地域医療推進学講座　中村浩士

高齢化社会による医療ニーズの変化、臨床実習の拡大やスキルの重視等の医学教育の変化から、地域医療に関連した医学教育の重要性が増しています。医療のみならず、保健、福祉、介護、そして、地域社会全体を実習体験することで、医学生ひとりひとりの"地域医療マインド"を高めることが将来の地域医療を確保する上で重要な任務と考えています（参考）。そこで、私達地域医療推進学講座が行なってきた医学部3年ならびに5年生を対象とした地域医療実習（図1）を紹介します。ひとことで学外実習といっても各学年約120名もの学生を山口県内の地域の病院に振り分けなければなりません。学生ですので移動は公共の交通機関が原則ですし、島や山間部の診療所や病院では近隣の宿泊施設の確保が大変です。実習先の確保から始まり、実習の日程や内容の調整、事故等に対する保険の確認、学生への事前指導など、課題はたくさんあります。また、ほとんど医療経験のない3年生を、実習施設のスタッフや患者さんに失礼の無いように指導し、学習の動機づけをする必要があります。5年生においてはクリニカル・クラークシップとして、指導医の監督下での医行為が認められているので、その準備も調整しなければなりません。具体的な実習内容としては、外来見学、診察、採血、処置、褥瘡・緩和ケア、予防接種、症例カンファレンス発表、訪問診察同行、巡回診察、あるいは、一次・二次救急体制等の、大学病院や臨床研修指定病院での実習が困難と考えられる内容を中心に盛り込んでいます。更に、少しでも安全かつ効率よく地域医療を学んでもらえるように、指導医講習会などを定期的に開催し、指導医の先生方や、教育担当者の方々と一緒になって教育内容を更新しております。地域医療実習の学習効果は、直ぐに地域に医師が増えるなどの目に見える効果は少ないかもしれませんが、少なくとも学生や、若い医師の地域医療の対する意識の変化や将来キャリアの幅が広がると信じております。

平成24年より連載してきた"地域医療だより"はこの第15回を持ちまして最終回となります。これまでご愛読くださいまして大変ありがとうございました。

平成24年春に初めて医学科3年の必修科目となった地域包括医療修学実習。岩国市錦中央病院にて撮影。ひとりの実習生の為に、病棟業務の合間を抜けて多くの病院職員の方々が集まって下さりました。

参考／地域医療実習の到達目標（医学教育モデルコアカリキュラムより）

【一般目標 GIO】

地域社会（へき地・離島を含む）で求められる医療・保健・福祉・介護の活動について学ぶ

【到達目標 SBOs】

（1）地域のプライマリ・ケアを体験する

（2）病診連携・病病連携を体験する

（3）地域の救急医療、在宅医療を体験する

（4）多職種連携のチーム医療を体験する

（5）地域における疾病予防・健康維持増進の活動を体験する

岩国市保健センターにて。地域医療には医師行政や公衆衛生、感染症などの幅広い知識が必要となります。

昔は良く見られていた医師による往診風景。学生や研修医は是非とも体験しておきたい実習のひとつです。

コミュニケーション実習の様子。実際に診療所に診察に来られた患者さんにインタビューシートに基づいて医療面談を行います。

岩国消防署にて。消防署での緊急出動時の同乗実習や研修を通して、救急医療についても学習します。

萩市大島診療所（山大病院だより2014.8月号Vol.218参照）

萩市見島への連絡船

図1／山口県内における地域医療実習施設

病棟リレー

各病棟を紹介します！

1病棟8階西

BYOTO RELAY

1病棟8階西のみなさん

1病棟8階西は、眼科38床、歯科口腔外科16床の混合病棟で、25名の看護師と4名の看護助手、1名のクラーク（平成27年1月現在）が働いています。

病棟では視覚や味覚及び摂食などの感覚器の障害があり、QOL（※1）の低下がみられる患者さん、そして0泊1日の短期の入院から、手術、化学療法、放射線治療と1年近くの長期入院生活を送られる患者さんの看護を行っています。眼科の患者さんが7割を占める病棟で、1週間に30人近くの患者さんの入院があり、多い日では1日15人を超える入院と手術があり、とても忙しい病棟でもあります。

病棟の特徴として視力障害のある患者さんのために、廊下の両サイドにこげ茶色の誘導ライン（病室入り口の前はオレンジ色）が設置され、ドア前の手すりには、触ってわかる識別表示も付いています。廊下には障害物もなく、いつも整理整頓されているのが、1病棟8階西で働く私たちの自慢です。昨年度には、夜間の安全のため、ナイトライトを廊下中央の天井に設置しました。また、高度視力障害の患者さんには骨なし、皮むきの食事提供や視力障害患者用食器などもオーダーしています。

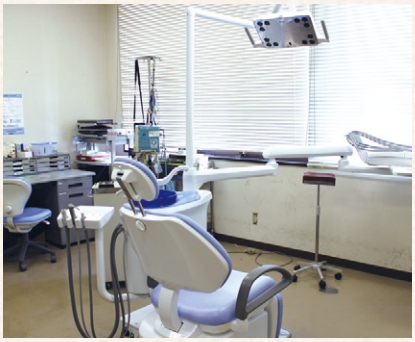
視力障害と言っても、視力低下だけでなく、視野狭窄、白濁など様々です。毎年新人の学習に視力障害の疑似体験ができる、シミュレーションレンズによる患者体験を行い、患者理解と看護ケアに生かしています。

病室入り口

廊下

歯科口腔外科では摂食、嚥下障害や、治療のために口内炎が頻発し、食事が摂取できない患者さんが多くみられます。そのため、口から食べる事の大変さ、大切さを感じて看護をしています。また痛みのコントロールが必要な患者さんや転院、在宅ケアに移行される方もいらっしゃるため、医師、看護師だけでなく、薬剤師、栄養士、ST（※2）、摂食嚥下チーム、NST（※3）、診療連携室など様々な職種の方と連携をとりチーム医療に取り組んでいます。

高度視力の患者さんや超高齢者の多い病棟のため、8階西の看護師は患者さんの安全・安心を第一に、日々看護を行っています。


歯科処置室

シミュレーションレンズによる視力障害の疑似体験を行っています。

紙師長より一言

1病棟8階西は眼科の緊急入院が多く、週末のベッドコントロールにいつも配慮しています。昨年度から1病棟4階西の共通ベッドを歯科口腔外科優先に、1病棟8階東の共通ベッドを眼科優先にしていただき、病床管理を行っています。忙しい病棟ですが、明るく、元気なスタッフに支えられいつも乗り切っています。

※1 QOL（クオリティ・オブ・ライフ）：生活の質　※2 ST（Speech Therapist）：言語聴覚士　※3 NST（Nutrition Support Team）：栄養サポートチーム

栄養治療部

季節のレシピ recipe

Today's menu 簡単ちらし寿司

1～2人分でも簡単に作れておススメです。

春

花々が咲き景色も華やかになるにつれ、
気分もわくわくしてきますね。
入園式・入学式などお祝い事が多く、
みんなで集まることも多くなる時期です。
レンジを使った簡単ちらし寿司を、
今回はご紹介します。
ここで紹介する甘酢は、寿司だけでなく
酢の物など他の料理にも使えるので、作っておくと便利です。

甘酢の作り方

材料

- 酢…… 500mℓ
- 砂糖…… 400g
- 塩…… 35g

この3つをボウルに入れ、泡だて器かハンドミキサーでしっかり溶かす。
乾燥した容器に戻せば、常温で保存できるので多めに作れます。糖尿病の方は、砂糖をマービー®、パルスイート®やラカント®にすると、エネルギーが抑えられます。ただし、保存が効きにくいため、冷蔵庫保存で1週間ほどです。

酢の効用 主に疲労回復や食欲増進、減塩や防腐効果などがあるので、上手に利用しましょう。

栄養成分 1人分
エネルギー……460kcal
塩分……2.5g

ちらし寿司の作り方

材料 1人分

- ご飯…… 200g
- えび…… 2尾
- 貝柱(小)…… 20g
- 蓮根…… 10g
- 人参…… 5g
- さやいんげん…… 5g
- 卵…… 1/3個
- 海苔…… 少々
- 酒…… 適量
- 甘酢…… 大さじ2

1. 皮をむいたえび・貝柱に酒をふりかけ、耐熱容器①に入れる。
2. 蓮根・人参は皮をむき、それぞれ食べやすい大きさに切り、耐熱容器②に入れる。
3. ①②を同時にレンジに入れ、2～3分かける。
4. ①からえびを出し、縦切りにして耐熱容器①に戻し、①にレンジで下茹でした②の蓮根と人参を入れ、分量外の甘酢(大さじ1)にしばらく漬ける。
5. 溶き卵は耐熱コップに入れ、レンジに1分ほどかけて菜箸などでかき混ぜ、炒り卵を作る。
6. ご飯に4の貝柱・蓮根・人参と甘酢(大さじ2)を混ぜ合わせる。
7. 出来た寿司にえび・いんげん・炒り卵・海苔を散らして出来上がり。

◎監修：管理栄養士　有冨早苗　福田有子

NEWS

「画論 The Best Image 2014」心臓部門で最優秀賞

このたび、超音波センターの有吉亨臨床検査技師が、東芝メディカルシステムズ株式会社主催の「画論 The Best Image 2014」の超音波部門（心臓部門）で、最優秀賞を受賞しました。

本賞は、病気の診断や治療に必要な画像の質や撮影・処理技術の工夫など臨床的価値を総合的に審査するものです。今年で22回目の開催で、多数の応募の中から上位入賞者が各部門（CT、MR、超音波）に分かれて発表やディスカッションを行い、有吉技師の発表が高く評価され受賞となりました。

有吉技師は、「超音波センターの先生方の日頃のご指導、またスタッフの方々のご協力によりこのような名誉ある賞をいただくことができました。今後とも、日常臨床に役立ち、且つ美しい画像描出をめざし努力してまいりたいと思います」と受賞の喜びを語りました。

最優秀賞受賞の有吉技師（右）と和田検査部副部長

NEWS

院内図書館ボランティアさんへの感謝状贈呈式

このたび、院内図書館のボランティアを辞められる中原サチ江さん（すみれの会代表）へ感謝状贈呈式が行われました。

中原さんは、1999年12月の院内図書館の開設から携わり、患者さんへの図書の貸し出しなど運営に取り組んできました。

式では病院長より感謝状が贈られ、謝辞が述べられました。

中原さんは、「長きにわたりボランティア活動を続けられたことに感謝いたします」と喜びの言葉を述べられました。

NEWS

創基200周年記念 歩道橋ネーミングライツパートナー

このたび、山口大学は創基200周年を記念して、宇部市の管理する小串歩道橋のネーミングライツ（命名権）パートナーとなりました。

ネーミングライツパートナー制度は宇部市が新たな財源を確保し、市民サービスの向上と地域経済の活性化を図るため、企業や団体、個人に歩道橋の命名者を募集するものです。

1月下旬に医学部前の小串歩道橋（渡辺翁記念会館前、医学部前交差点）に、「山口大学創基200周年記念　医学部前歩道橋」の名称と山口大学のマスコットキャラクター「ヤマミィ」が設置されました。

編集後記

2015年を迎えたと思ったら、あっという間に3月。月日が流れるのは本当に早いですね。病院だよりの担当となり早1年が過ぎました。最近では、載せてくださいとお声がかかるようになりました。本当にうれしく思います。これからも病院だよりへの情報提供よろしくお願いいたします。

皆さんからのご意見・ご感想をお待ちしております。
今後読んでみたいテーマ、興味のある記事などお気軽にお寄せください。
FAX 0836-22-2113　E-mail me202@yamaguchi-u.ac.jp

企画発行：山大病院だより編集委員会
事務担当：山口大学医学部総務課総務係
〒755-8505 山口県宇部市南小串一丁目1番1号
TEL 0836-22-2007　URL http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp